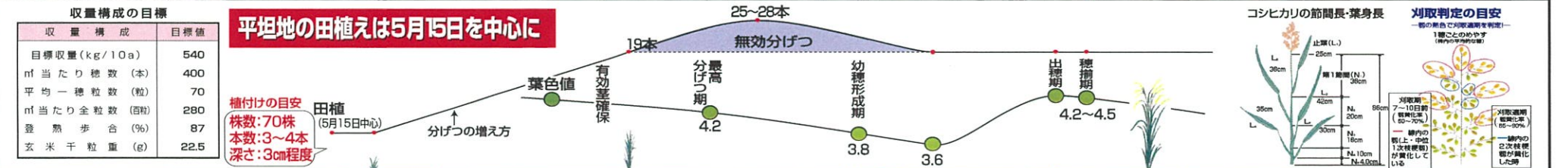


# 2020年産 JA米基準 美味しいあおば<sup>®</sup>米 コシヒカリの栽培こよみ 目指せ1等米比率90%以上

あおば農業協同組合 各地区農業技術者協議会

今年度の重点対策 ①珪酸質資材、堆肥の継続施用 ②5月15日を中心とした田植え ③出穂後20日間の湛水管理 ④カメムシ防除の徹底 ⑤栽培記録・GAPの確実な実践

栽培基準を守った生産をしよう



生育期	育苗期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期	収穫
水管理	やや深水	浅水管理	溝掘り	中干し期間	間断かん水	飽水	湛水	間断かん水
月日	4月 25日	5月 5日	5月 10日	5月 15日	6月 5日	6月 10日	6月 15日	6月 20日
管理のポイント	珪酸質資材の施用と深耕 田面は均平にする 代かきは練りすぎない 土壌に応じた適正な施肥 播種は25日を中心にする	田植え(16日を中心) 育苗期は均平にする 代かきは練りすぎない 土壌に応じた適正な施肥 播種は25日を中心にする	活着後は3cm程度の浅水管理 やや深水で保温 田植え(16日を中心) 育苗期は均平にする 代かきは練りすぎない 土壌に応じた適正な施肥 播種は25日を中心にする	中干し(1ヶ月までに開始) 中干し後は間断かん水を徹底 出穂後の湛水管理に備え田面を固める	幼穂長(1.5cm)の確認 一回目の穂肥は幼穂長、葉色に応じて慎重に 一回目は一回目の刈り取り後(1週間後)にしっかりと	一回目の穂肥は幼穂長、葉色に応じて慎重に 一回目は一回目の刈り取り後(1週間後)にしっかりと	基本防除(一回目) 基本防除(一回目) 基本防除(一回目) 基本防除(一回目)	刈取り(早めの落水はしない) 刈取り(早めの落水はしない) 刈取り(早めの落水はしない) 刈取り(早めの落水はしない)

病虫防除	種子消毒	育苗カビの予防	育苗期	田植期	穂期	傾穂期	傾穂期
●モミガードC水和剤 ●水20ℓに100g使用する ●24時間消毒で1回のみ使用可 ●最初に種粒をよくゆすぶ ●消毒後は水洗いしない	●イネミズソウムシ、イネドロオウムシ、イネゴ類 ●ニカメイチュウ、白葉枯病、いもち病、紋枯病	●イネミズソウムシ、イネドロオウムシ、イネゴ類 ●ニカメイチュウ、白葉枯病、いもち病、紋枯病	●いもち病・稲こうじ・変色米 ●ノンプラス粉剤DL ●アミスターEIT(紋枯病も登録あり) ●紋枯病 ●モンカットファイン粉剤20DL ●バシタックソル	●いもち病・カメムシ類・ウンカ類 ●ビームスタークル ●粉剤5DL ●10aに4kg	●いもち病・カメムシ類・ウンカ類 ●ビームスタークル ●粉剤5DL ●10aに4kg	●カメムシ類・ウンカ類・ツマグロヨコバイ ●キラップ ●粉剤DL ●10aに4kg	●カメムシ類・ウンカ類 ●スタークル粉剤DL ●スタークル液剤10 ●トレボシ粉剤DL ●トレボシ乳剤

土壌に応じた適正な施肥	除草剤は適期に散布 (使用量、使用時期、使用方法を誤らない事)	品質・食味に差がでる土づくり																																																			
◆コシヒカリ肥料設計の目安(kg/10a)◆ <table border="1"> <tr><th>土壌区分</th><th>一発肥料</th><th colspan="3">分施肥体系</th></tr> <tr><td></td><td></td><th>基肥</th><th>穂肥①</th><th>穂肥②</th></tr> <tr><td>沖積</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>SL(砂壤土)</td><td>27~36</td><td>32~36</td><td>10</td><td>13</td></tr> <tr><td>L(壤土)</td><td>32~33</td><td>25~30</td><td>10</td><td>12</td></tr> <tr><td>CL(塩土)</td><td>23~27</td><td>20~25</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>洪積</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>赤土</td><td>27~30</td><td>25~30</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>(SL)黒ボク</td><td>32~36</td><td>32~36</td><td>10</td><td>12</td></tr> </table>	土壌区分	一発肥料	分施肥体系					基肥	穂肥①	穂肥②	沖積					SL(砂壤土)	27~36	32~36	10	13	L(壤土)	32~33	25~30	10	12	CL(塩土)	23~27	20~25	10	10	洪積					赤土	27~30	25~30	10	10	(SL)黒ボク	32~36	32~36	10	12	田植後(10a当たり使用量) <table border="1"> <tr><th>初期剤</th><th>中間剤</th><th>後期剤</th></tr> <tr><td>かねつく粒剤 1kg</td><td>エンペラー粒剤 1kg</td><td>ヒエ、広葉雑草が殖した場合 クリンチャーバスマE 広葉雑草が殖した場合 バサグラン粒剤 クサネム・イボクサが殖した場合 ノミニー液剤</td></tr> </table>	初期剤	中間剤	後期剤	かねつく粒剤 1kg	エンペラー粒剤 1kg	ヒエ、広葉雑草が殖した場合 クリンチャーバスマE 広葉雑草が殖した場合 バサグラン粒剤 クサネム・イボクサが殖した場合 ノミニー液剤	「土づくり」の3ポイント <ol style="list-style-type: none"> <li>珪酸質資材100kgを目標に継続的な施用</li> <li>稲わら、堆肥・糞ガラ等の有機物の施用</li> <li>15cm以上の深耕の実施</li> </ol>
土壌区分	一発肥料	分施肥体系																																																			
		基肥	穂肥①	穂肥②																																																	
沖積																																																					
SL(砂壤土)	27~36	32~36	10	13																																																	
L(壤土)	32~33	25~30	10	12																																																	
CL(塩土)	23~27	20~25	10	10																																																	
洪積																																																					
赤土	27~30	25~30	10	10																																																	
(SL)黒ボク	32~36	32~36	10	12																																																	
初期剤	中間剤	後期剤																																																			
かねつく粒剤 1kg	エンペラー粒剤 1kg	ヒエ、広葉雑草が殖した場合 クリンチャーバスマE 広葉雑草が殖した場合 バサグラン粒剤 クサネム・イボクサが殖した場合 ノミニー液剤																																																			

栽培記録	区分	珪酸質資材、肥料名	施用月日	施用量	本田管理(作業開始日)	代かき(月日)	落水(月日)	田植え(月日)	刈取り(月日)	区分	時	期	農薬名	作業日	散布量
施肥	土づくり	基肥	月	日	kg/10a						病虫防除	種子消毒	月	日	g/10a
		追肥	月	日	kg/10a					育苗期		月	日	g/10a	
		穂肥①	月	日	kg/10a					本田		月	日	g/10a	
		穂肥②	月	日	kg/10a					随時		月	日	g/10a	

肥料・農薬名は農協の推奨品目です。農薬等は記載されている使用基準を守って使用してください。